

## 教育長定例記者会見 会見録

日時：令和4年9月6日（火）15時00分～

場所：教育委員室

### 発表項目

- ・ 2022 高校生みえ創造サミットを開催します
- ・ 「みえる・わかる・つながる！職業ポータルサイト」を開設します

### 質疑事項

- ・ 令和4年度三重県一般会計補正予算について
- ・ 令和5年度三重県立高等学校入学者選抜実施要項及び三重県立特別支援学校入学者募集要項について

### 発表項目

#### ○ 2022 高校生みえ創造サミットを開催します

1点目は、2022 高校生みえ創造サミットを開催するというものです。

県教育委員会では平成29年度から令和3年度まで、1学年3学級以下の小規模校において、地域を学び場とする課題解決型学習を進めてまいりました。その際、県内外の高校生を対象に、高校生地域創造サミットを毎年開催してきたところです。今回は、こうした学びを継承して、今年度から新たに2022 高校生みえ創造サミットを開催しようとするものです。

概要ですけれども、これまでは、地域の活性化に係る共通のテーマを、参加する高校生の皆さんに提示して、各グループがあらかじめ指定された地域に出向いて、フィールドワークを行い、グループ討議を行ってきたところです。今回のサミットでは、高校生がグループごとに学ぶ地域とテーマを自ら主体的に決定、設定して活動をするものです。今回の特色として、対面とオンラインを組み合わせた活動といたします。この活動を通じて、生徒が主体的に考え行動する力、探究活動に取り組む姿勢を身につけるとともに、様々な地域を知ってもらって、自分の地域と照らし合わせて学びを深め、三重や地域を大切に作る心、あるいは、社会に貢献しようとする態度を育みたいと思っております。

日程ですけれども、第1回を9月23日に松阪庁舎で行いまして、参加生徒は基調講演を聞いて、グループ交流あるいはテーマ設定を行います。その後、オンラインでの全体会グループワークを経て、2月11日に自分たちで探究した成果の発表、講評、表彰式等を行います。その間、フィールドワークやグループワークについては、現地に行ったり、オンラインも含めた討議をしたりして、中身を深めていただきます。参加者は予定として、11校24人です。3年生1人、2年生11人、1年生12人ということで、県立高校が8校18人、私立高校が3校6人です。学校別は資料に書かせていただいたとおりです。

## ○ 「みえる・わかる・つながる！職業ポータルサイト」を開設します

2点目は「みえる・わかる・つながる！職業ポータルサイト」を開設するというものです。

県内の事業所約 2,000 の情報や就職に関する情報を検索閲覧できる高校生向けのホームページ「みえる・わかる・つながる！職業ポータルサイト」を開設いたします。作成の経緯ですけれども、これまで、高校生が事業所の情報を得る場合には、主に求人票、あるいは事業所のパンフレットが、学校にあるのですけれども、そうしたものを閲覧したり、職場見学に行ったりすることに限られている部分がありまして、職場の雰囲気などの詳しい内容や、事業所の多くの情報を入手するには、一定限界がありました。それからもう1点、1年生のときから、県内の事業所の情報、職種、業種の情報を探るのもなかなか容易ではないという状況がありました。このため、県内事業所の情報をより詳しく提供し、入学時から高校生の主体的な進路選択を促すために、このサイトを作成したものです。

主な掲載情報は、各事業所の事業内容、事業所が高校生に求めるスキル人物像、職場の魅力や雰囲気を、先輩従業員の言葉や動画等で紹介する、あるいは事業所におけるインターンシップ職場見学等の受け入れ、オンラインでの職場見学の実施についての情報も掲載いたします。それから、事業所情報とは別に、職種、あるいは業種についての解説のほか、その適性や魅力、やりがい、求められる力などの就職に関する情報についても掲載をいたします。その情報は地域、業種、職種、インターンシップの受け入れ状況、事業所名をキーワードに検索できるようにしております。活用例としては、生徒はそれぞれの興味・関心に応じた職業研究、事業所研究に取り組むことができます。他に、興味・関心のある職種、業種や地域の事業所について、詳しく調べたり、実際に職場見学や仕事の体験を行いたい場合にどのような体験ができるかを知ることができます。また、入学して早い段階から、職業研究、事業所研究に取り組むことができます。それから、スマートフォンからも閲覧できますので、生徒が自分の自宅で、保護者の方々と、家族と一緒に、進路相談の際に活用することもできます。学校としては、その事業所がインターンシップあるいは職場見学等の事前学習、進路指導等の場面で、事業所研究あるいは職業研究の題材として活用することができます。閲覧の開始につきましては、各事業所に今、最新の情報の登録を依頼している途中でもあって、10月1日から閲覧が可能となります。その後も、随時、掲載内容の見直しや新たな登録の働きかけを行っていきたいと思っております。資料の後ろにイメージのページをつけさせていただきましたけれども、少しでも、モニターで見たいと思います。

モニターの方ですけれども、まず資料1がページのメインイメージになります。この下に検索の画面がありまして、事業所名のキーワードであったり、地図からその地域、もしくはこちらのチェックボックスからも地域を選んだり、あとはその他の条件ということで、業種であったり、同じように職種から生徒の希望するようなところを検索することができます。入れていただいてから検索をしますと、一覧で順番に企業名から職種等の内容が順番に出てくる形になりまして、さらにこの先、こちらの企業名を実際にクリックしてもらいますと、

それぞれの事業所の詳細ページに移っていく形で検索できます。この詳細ページですが、最初のあたりは事業所名であったり、事業概要であったりという形になるのですけれども、この後、事業所のPRということで、資料2にあるそれぞれの会社の魅力の紹介であったり、それぞれの会社が求めるスキル、人物像、こういった写真も交えながら、職場の雰囲気、それから先輩、従業員の声ということで、実際にどういった状況で働いていらっしゃるかということがわかるようになっていきます。それとともに、動画等も貼り付けることができるようになっておりますので、動画の方で、その企業の実際の雰囲気を見たりという形でできます。最後に、インターンシップの件について、それぞれの会社ができるかどうかということで、キャリア教育の支援等についてもこういった情報が得られるということです。

### 発表項目に関する質疑

#### ○ 2022 高校生みえ創造サミットを開催しますについて

(質) これまでの地域創造サミットというのは、県内外の高校生が対象だったものを衣替えして県内の高校生によるイベントにするということですか。

(答) そうです。今までのサミットもフィールドワークというのは、県内の高校生対象で、例えば今年度は松阪飯南地区であるとか、鳥羽であるとか南伊勢であるとかという地域を指定して、そこを地域の市役所、役場の方の協力、地元の方の協力も得てビルドアップもしていった、これは希望する県内の高校生だったのです。そのあと、その高校生の発表とか交流の場としてサミットを設けていたのですけれども、そこには県外の同じような活動をしている高校生の方もお招きして、交流を深めていく状況でした。

(質) 発表を聞く側として、県外の方も招いていたと。

(答) そうです。聞く側あるいはその意見交換をするという形で。それでよかったですかね。

(答 教育政策課) はい、間違いありません。

(質) フィールドワークをするのは、今までも県内の高校生であったということですね。

(答) そうです。

(質) その上で今回はその外の方を招くことはせずに、県内の方たちで完結するようなものにするということなのですかね。

(答) そうです。

(答 教育政策課) それぞれ県外の同じような学びをしている生徒と交流を持って、意見を聞いたりという場はあると思うのですけれども、基本的に活動するのは県内の高校生でございます。

(質) 分かりました。このグループというのは、色々な高校の人たちをシャッフルしてグループを作るということですか。

(答) そうです。参加予定は24人なのですけれども、予め、どんな課題に興味がありますかというのを聞いていまして、そういった共通する課題などでグルーピングされると思っています。同じ学校の生徒ばかりじゃなくて、課題に共通するグループです。

(質) 興味に基づいてということですね。

(答) はい、そうです。

○ 「みえる・わかる・つながる！職業ポータルサイト」を開設しますについて

(質) これは今までは、1、2年生でも別に学校の進路指導室で見ようと思えば、紙の資料を見ることができたのだけれども、あんまりそういう機会がなかったからですか。

(答) そうです。例えば1年生が見る場合でしたら、前年度までの求人票であったりするのですけれども、求人票の情報はハローワークの様式に基づきますので、かなり情報が限定されているということがあります。それから会社のパンフレットとかはあるのですけれども、部数がなかったり、紙の情報ということになりますので限定されていたということです。

(質) それを希望者はいつでも、若い1、2年生でも見られるようにしようという。

(答) 内容もかなり充実させて、1年生の早い段階から見られるということです。

(質) これ10月1日にスタートする時に何社ぐらいなのですか。

(答) 登録としては2,000社程度の登録です。

(答 高校教育課) 資料の一番冒頭に約2,000と書かしていただいています。

(質) これ10月1日からもう2,000社全部見られるということですか。

(答 高校教育課) はい。

(答) ただその内容は、今見ていただいたような内容に全ての事業所が、10月1日時点で出揃っているかということ、まだ途中経過のところがあるかが分かりません。そこで、今詳しい情報をかなり入れていただいているのですけれども、それをもう少し進めて、10月1日から閲覧できるようにしたいということです。

(質) 2,000社近くの基本的なデータ、資本金とかそういうのを。

(答) そうです。

(質) コンテンツは誰が作るのですか。基本的に事業者にも上げてもらってそれを。

(答) 一応基本的な項目は、こちらで指定をさせていただいて、例えば事業所の中の様子であるとか、すでに働いている社員の方の様子とか声は、ものによっては、動画を掲載していただいたり、あるいは活字で先輩社員の方の声を掲載していただいているというところもあります。ですので、项目的には我々の方で一定指定させていただきながら、その内容はそれぞれの事業所で工夫して記載という…

(質) それをこちらで精査して載せると。

(答) 精査というか様式化されていると思っただけですか。

(答 高校教育課) 特に精査というところまでは。中身は一度確認しますが、確認をさせていただいて、掲載というか登録させていただいています。

(質) それを県の職員の方がやると。

(答 高校教育課) はい。

- (質) さっきの2,000社からスタートというのは、どうして2,000なのか。
- (答) 今、インターンシップが可能な事業所として、お届けいただいているのが大体2,000事業所ございますので、そこをベースに、今見ていただいたような情報をさらに加えていただいて、作ってきているものです。
- (質) 高校生のインターンシップを受け入れている事業所が県内に2,000あると。
- (答) 全て実績があるかどうか、受入れが可能な事業所として登録させていただいて事業所ベースにしています。
- (質) 今それを入れているということはそのまま就職、高校生の求人も出していると。
- (答) そうです。ほとんどが求人をいただいているところです。
- (質) そういうところがまあ大体2,000あると。
- (答) はい。
- (質) 2,000あって2,000全てが載せられるのか、2,000に声をかけてそのうちのいくつかになるのか。
- (答) インターンシップに係る可能な事業所として、2,000というのがすでに登録されているのがあって、その情報はあるのですけれども、それは限られた情報になりますので、それをお願いして、今見ていただいたような情報をかなり加味していただいています。ですので、2,000で始まるのですけれども、中身は、今のインターンシップに係る基本情動的な部分に留まってしまうのも、10月1日時点ではあるかわからないのですけれども、それをできるだけ少なくして、充実した情報内容で10月1日に高校生に見ていただければというふうに思っております。
- (質) 2,000から今後増えていくことはあまりないということですかね、そうすると。
- (答) 当然増えていくことはあります。今もそういう各事業所に登録をお願いしているところもありますので、増えていく可能性はあると思います。
- (質) その事業者さんの方で高校生を受け入れると決めた場合は、また新たに増えていくという感じですか。
- (答) そうです。その地域の企業とか事業所の情報を、中々伝えきれていない部分もありますので、できる限りその事業所を多くして、高校生とかその保護者の方にも、早い段階から詳しい情報を知ってもらって、主体的な進路選択につなげていきたいと思っております。
- (質) 最近だと、それぞれ企業さんもホームページとか用意されているとは思いますが、そういうのとは別にこうやって教育委員会でまとめてポータルサイトを作るということの、生徒さんたちにとってのメリットと、今回作ることで県としてどういうことを期待するかということも教えてもらっていいですか。
- (答) まず高校生にとって、おっしゃるように企業のホームページもあるかと思うのですけれども、その事業所が高校生にどんなスキルとか力を求めているかとか、その会社で具体的にどんな事業とか仕事が行なわれているかということを詳しく知れたり、もう一つ

は、三重県の高校生から就職した先輩の声とか活躍する姿を見て、事業所に対するイメージを持ってもらうというふうに、ホームページよりもその部分が情報として期待しているところです。リンクとして、その事業所様のホームページも貼り付けていただけるようにしております。その上で、高校生の就職の三重県の内定状況というのは、昨年度末の99.6%、その前は99.8%ということで、かなり率として高いという状況はございます。そういう中で、高校生の進路選択というのが、3年生から本格的にということになるのでしょうかけれども、早い段階からいろんな情報を広く知る機会を持ってもらって、主体的に選択をして、それぞれの地域、事業所で活躍してもらえるようになってほしいと思っております。あと、家庭でも見ていただけますので、保護者の方とかも話をさせていただけると思っております。それから、事業所の情報だけじゃなくて、職種とか業種の情報も入れておりますので、それも併せて、早い段階から、例えばすぐ企業ではなくて職種とか業種の知識とかの情報も見ていただければと思います。

(質) 先ほど、内定率という話が出たのですけれど、内定率というのは就職を希望した人が就職できた割合のことですか。

(答) そういことです。

(質) 県内企業への内定率というわけではないのですよね。

(答) 県内企業の内定率だけでなく、県外も含めてです。

(質) 県内の事業所への就職率とか内定率というのはあるのですか。

(答 高校教育課) 県内への就職率は88.5%です。就職希望者の中で、県内の企業に就職された方は88.5%で、残りの方が三重県以外のところで就職されています。

(質) 令和3年度の実績ですか。

(答 高校教育課) 令和3年度の実績です。

(質) 人数でいうと大体何人ぐらいになりますか。

(答 高校教育課) 就職者が約3,000名という感じになりますので、就職希望者が約3,000名、年によって違いますけれども、大体それぐらいが就職希望者です。

(答) 令和3年度の就職者は3,338人でした。県立です。

(質) 県立高校。

(答) そうです。県立高校の卒業者1万1,115人だったのですけれども、そのうち就職されたのが3,338人です。

(質) こういったポータルサイトは県外で、すでにやっているところとかがありますか。

(答) さっき申し上げた、インターンシップという形での基本情報はあつたのですけれども、こういった形でしているところは、把握したのですけれども、他の都道府県でやっているところは今のところ聞いていないです。ないという感じですか。

(答 高校教育課) そうです。

(質) まず確認なのですが、大学生でいうと、リクナビとかマイナビとかいろいろあると思うのですが、高校生ではこういったポータルサイトの的なものはないのですよね。

(答 高校教育課) ないと言えるかどうかかわからないのですけれども、三重県の事業所とかでさせていただいているところでは、全国的な展開というのはいまのところあるかわからないのですけれども、三重県内の高校生向きということでは、今回のポータルサイトが初めてという言い方が変わりませんが、使っていただけるものとしてはあるのかなと思っています。

(質) 大学進学率が増えていく中で、高校生の就職希望者は減っているのかなと予想しているのですけれども、こういったポータルサイトを開設する背景には、事業者支援というものもあるというふうに理解してよいか。

(答) 就職を希望する高校生が、本当に地域の事業所にはすばらしい事業所がたくさんあるのですけれども、その内容とかその企業、事業所に関わる情報を、早い段階からきちんと届けて、そういう情報を知ってもらって、主体的に就職先というのは、学校での教員の指導とかアドバイスはもちろんあるのですけれども、選択してもらえようになったらと思っています。

(質) その2,000社なのですか、採用しているところじゃなくて、インターンの受け入れをしているところなのですか。

(答 高校教育課) はい、そうです。

(質) 例えば、採用していて規模が小さくてインターンを受けられない、みたいなところもありますよね。そういうところは載せないという。

(答 高校教育課) 例えば、求人は出していないけれど、歯科医師会とか薬剤師会のように、「職場を見てください、だけど当然、薬剤師とか歯科衛生士という求人はしないのだけれども」という団体さんも、このページには載せてもらっています。なので、求人イコールインターンシップ、イコールばかりではないということです。

(質) 逆に言うと、求人はしているけれど、インターンはやっていませんという、忙しいとか規模が小さいとか、そういう会社は基本的に載せないということですか。あくまでインターンシップの受け入れをしていないと。

(答 高校教育課) そういうことではございません。当然、インターンシップの協力は、小さかったり、忙しくてできないけれど、わが社はこんなのですよという。

(質) じゃあ、インターンシップを受けることが前提ではなくて、採用している会社なり。

(答 高校教育課) わが社のことを知っていただきたいという会社は登録いただいています。

(質) さっき、インターンの受け入れをしている会社じゃないと、と言われていましたが、採用している会社は、希望があれば載せるということですね。

(答 高校教育課) そうです。

(答 高校教育課) 補足させてください。昨年までインターンの受入事業所ということでウェブページがありまして、それをもとに今回これを作っています。そのほかに、今後こういうところに載せていただく会社をいろいろ回らせていただく中で、ぜひ掲載して

くださいということ呼びかけていますので、さらに 2,000 社以上に増えていくというふうに、我々としてはしていきたいと考えています。

(質) 高校生の採用をしている会社と、インターンを受け入れている業界団体ということですか。あとは何があるのですか、可能性として、事業所というのは。

(答 高校教育課) インターンシップはしないとか、高校生の受け入れはないけれども、会社として自分の会社を紹介したいというところ。

(質) 採用も別に前提ではないわけですね、採用も前提ではなくて。ちなみに、インターンを受け入れている業界団体というのは、歯科医師会の他にどういうところが。

(答 高校教育課) 歯科医師会、三重県薬剤師会。

(質) 先ほど、県内の企業へ就職した割合が 88.5%ということでしたが、今回のポータルサイトを開設したのとあわせて、県内の就職率、地元で就職してほしいという思いもあると思いますが、そのあたりをもう一度聞かせていただけますか。

(答) 就職を希望する三重県の高校生のみなさんが、地域の事業所や企業、素晴らしい事業所がたくさんありますので、その情報を多く掲載させていただいて、そこをよく知ってもらって、学校における担当教員の指導とか助言もありますけれど、そのうえで具体的な職業、進路選択をしていただければと思います。

(質) 内定率自体も県内は高いということなのですが、その中でもマッチングがうまくいくようにとか、そういう思いもありますか。

(答) 生徒それぞれいろんな希望があると思いますので、その希望がかなえられるような事業所や企業を、いろんな情報の中で、そういうところを見てもらって、自分の自己実現をしてもらえればと思います。

(質) 改めての確認ですが、全国初として、言い方としては、自治体に絞ってこういうサイトを作るのが初めて。

(答 高校教育課) 全国的なものだと、例えば、三重県の高校生に求人がいただけるのかとか、三重県の高校生のインターンシップを受け入れてもらえるのかとかがわからないものだと思うのですが、このポータルサイトだと高校生に対してアプローチを、企業様の方からメッセージとして伝えているポータルサイトとしては初めてと思っています。

(質) 高校生向けの就職としては初めて。

(答) そうです。

(質) 都道府県では、こういうサイトを作るのは初めて。

(答 高校教育課) はい、初めてです。

(質) 例えば、政令指定都市とかではどうですか。

(答 高校教育課) すべてくまなく確認したわけではありませんけれど、確認したところでは、本県のこのサイトのところの中身まで作っているのはないのかと。把握している段階で申し訳ないのですけれども、そのように把握しています。

(質) 各都道府県が自分のところの県内の事業所を、こういう形で詳しくポータルサイトに

しているのは初めてと思われる。調べられた中では、ということですね。

(答) そうです。

(質) 政令市まではともかく、都道府県は一回お調べになっているということですかね。都道府県では他になさそうとは言ってもいいですかね。

(答 高校教育課) はい。

(質) サイトの名前が「みえる・わかる・つながる！職業ポータルサイト」ということですが、「みえる」・「わかる」はわかるのですが、「つながる」というのは、例えば、直接このポータルサイトからインターンシップを申し込んだりとか、直接、採用試験みたいなものを申し込んだりとか、普通だったら学校を通してとなると思うんですけど、そうではなくて、ポータルサイトから直接、企業さんにつながるとか、そういうことができたりする機能もあったりするんですか。

(答 高校教育課) そうです。採用試験はまた別なのですけれども、今おっしゃっていた、事業所見学であったり、あるいは事業所によってはオンラインで情報を直接やり取りできるということも可能かどうか、という情報も入れていただいていますので、そういうところも生徒がつながるという意味で、「みえる・わかる・つながる」という形にさせていただいています。

(質) 企業の連絡先とかが載っていれば、例えば、生徒は自分で企業さんに連絡をとってとかそういうこともできるみたいなイメージですかね。

(答 高校教育課) 基本は、学校を通してください。実際、ポータルサイト見ますと、学校を通してくださいと書いてあるところは多数ございますけど、学校を通して学校から各企業の担当に、実際に生徒がオンライン上、先ほどもありましたように、面談したり会社見学行けたりということにつながっていくと考えています。

(質) 年間の事業費ってどのくらいですか。

(答 高校教育課) この職業ポータルサイトにかかるのは、約 150 万円です。

(質) 都道府県初って、結構すごいことだと思うのですが、なんかそういう国の推奨事業だったりするんですか。全くゼロベースで発案されたのですか。

(答 高校教育課) そうです。

(答) 三重県の方は、ものづくりが盛んであったり、地域産業が盛んであったりということで、全国に比べると就職を希望して、実際に就職する生徒の割合が全国平均より三重県は高いという状況がございます。先ほども申し上げましたが、本当にいろんな素晴らしい事業所たくさんありますので、そういうのをしっかり届けたいということと、高校を就職した後、早いうちに離職をするという生徒さんもいるという現状もありますので、そういったことへの解消、それから1年生なりの早い段階からどの事業所ということでもなくとも、職種とか、業種とか、社会でこういうことが求められているということを、生徒によく知っていただきたいというのが思いです。

(質) 離職率みたいな、例えば3年離職率みたいなのはあったりするのですか。高校卒業

者の。

(答 高校教育課) 三重県のということですか。

(質) 三重県の。

(答 高校教育課) 1年目ということでいくと、令和2年3月の卒業生でいくと、三重県は1年では12%になります。

(質) 令和2年3月に卒業した人が、1年以内に離職した人。

(答 高校教育課) 1年以内です。ちなみに全国では15.0%になります。

(質) 三重県は低くて済んでいるということですね。それでもこれだけあるということは、それをなるべく止めるために、もっと止めるために。

(答) そうです。そこで、もし自分が思っていたのと違うということで、離職ということがあるのなら、それは少しでも早く。

(質) 初めから研究しておけば、防げるかも。

(答) もっと積極的な意味で、違う事業所とか違うところに行かれる生徒さんもいると思うのですけれども。

(質) ポータルサイトを立ち上げてから、生徒さんやご家庭にどういう情報案内をする予定でしょうか。

(答 高校教育課) 10月1日から使えるようになりますので、まずは、職員に対してこういうものが使えるようになっていくということで、学校で使えるように案内していくのですが、例えばこのポータルサイト、生徒は学習端末を1年生が使っていますので、例えば、学習端末のメニューにポータルサイトのアイコンとか、ショートカットを表示できるようにするとか、QRコードを渡してすぐにポータルサイトに入れるようにということで、生徒に使いやすいように案内していきたいと思っています。また、学校の総合的な探究の時間やロングホームルームなどの進路研究する時間に、このサイトを活用するように進めていきたいと考えています。

(質) 職員とおっしゃられたのは教員とは違う。

(答 高校教育課) 教員のことです。

## その他の項目に関する質疑

### ○ 令和4年度三重県一般会計補正予算について

(質) 発表外のことで1つ、2つ確認させてください。今回の教育委員会定例会の中で補正予算の資料は入っているのですでしたっけ、この中。

(答) 9日にまとめて総務部の方から記者発表とか、あると思いますので。

(質) それで一緒にやられるということで、こっちには今日はない。

(答) はい。

(質) わかりました。

○ 令和5年度三重県立高等学校入学者選抜実施要項及び三重県立特別支援学校入学者募集要項について

(答) 募集要項とかで、念のためちょっとお尋ねなのですが、大きく変わったことって今回、制度的なり、なんかありましたでしょうかね。県立高校、特別支援学校の募集要項で大きな変化というのは。

(答) 内容というよりは手続きとして、今回というか次の入学試験からWEB出願をできるように、WEB出願システムを稼働しますので、志願者生徒が入学願書、今までは紙で中学校の教員が出していたのが、WEBシステムの中で登録してWEB出願をするということと、調査書というのもあるのですが、これは中学校が作るのですが、調査書もWEB上に入力してWEBで志願高校に出すという、そうした部分が前年度からの大きな変更点になっています。

(質) だいたい予算のところに説明していただいた、そのへんぐらいですかね。大きな変更点で言いますと。わかりました。

(質) 今の関連のWEB出願システムは、もう紙は完全になくなってWEBに移行されるということですか。

(答) 高校を志願する志願表というのは、WEBに一本化します。調査書もWEBに一本化します。ただ、入試の手数料というのが2,200円、全日制だったら2,200円なのですが、それを県のシステムの中では電子納付というか、それがまだできてませんので、その部分については、電子納付された部分とその納付書のような紙を、志願学校に提出していただくという部分はありますが、基本的に志願表と調査書は全てWEBになります。

以上、15時40分終了